

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：37115

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730557

研究課題名(和文) 大学生の職業観とその発達支援

研究課題名(英文) Career Views of University Students and support career education

## 研究代表者

堀 憲一郎 (Hori, Kenichiro)

久留米工業大学・工学部・教授

研究者番号：40390265

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル化や我が国の産業構造や就業形態の大きな変化とともに、将来の職業生活の在り方、すなわちキャリア形成の道筋を非常に見通し辛い状況に現在の大学生は置かれている。第一に、本研究はそのような大学生が持つ素朴な職業観についてテキストデータの分析を基に検討した。

また、大学生の職業観の発達支援という点を踏まえ、大学におけるキャリア教育の問題点と今後の課題を展望した。その結果、大学生は職種ごとに固有な観点からその評価を行っていることが示された。また、職業観とキャリア志向、キャリア成熟との関連が示唆された。

第二に、高等教育におけるキャリア教育に関する研究を概観し、その問題点を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Globalization, as well as the industrial structure and forms of employment in Japan, have placed today's university students in a position from which it is difficult to see a future career path. Primary this study examined naive career views of such a university students on the analysis of text data. As a result, it was revealed that the university student evaluated it from a point of view peculiar to every type of job. In addition, an association between career view and carrier intention, carrier maturity were suggested.

Secondly I reviewed the detail of literatures that argued about the relation between the career formation of the youth and the career education in higher education.

研究分野：教育心理学

キーワード：キャリア教育 素朴理論 テキストデータ

1. 研究開始当初の背景

現在、様々な社会的ニーズを受け、幼児期の教育から高等教育に至るまでの体系的なキャリア教育の推進が求められている。しかしながら、キャリア教育の実践は、まだ始まったばかりの状況であり、課題も多い。若年無業者の増加、新卒者の離職率の高さなど、特に学校から社会への移行が円滑に行われていない現状を踏まえると、若者がそのキャリア選択においてどのような職業観や勤労観を持っているのか、また、それらをより成熟したものと発達を促すためにはどのような教育的働きかけが効果的なのかを明らかにすることは、今後、効果的なキャリア教育活動を実現するための一助になると考えられる。

(1) 若者の社会的・職業的自立の難しさ

現在の若者の社会的・職業的自立をめぐる様々な課題を受け、中央教育審議会では、平成 20 年 12 月、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問を受け、平成 23 年 1 月その答申をとりまとめた。同答申によれば、若者の社会的・職業的自立や、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた支援は、関係機関が連携して取り組むことが必要であり、その中で、学校が果たす役割が重要であると指摘されている。また、そのために必要な力の要素として Fig. 1 のような要素が挙げられている。本研究では、ここに挙げられた要素が現在の若者にどのような形あるいは水準で形成されているのか、また、それぞれの要素は互いにどのような影響を及ぼしあっているのかを検討することで、今後のキャリア教育活動の効果的な実行への示唆をうることができると考える。

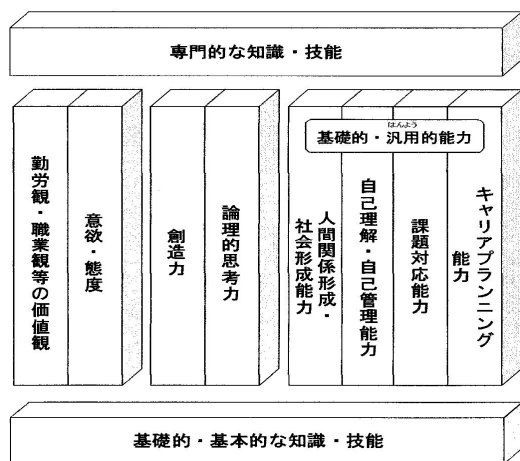


Fig. 1 「社会的・職業的自立，社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素（平成 23 年 1 月答申より抜粋）

(2) 学校から社会への移行が円滑に行われない背景

学校から社会への移行が円滑に行われない背景について具体的に考えると、しばしば言われるように若者の「働くこと = 仕事・職業」への意識、即ち勤労観・職業観は必ずしも十分に成熟されたものとなっていない点が挙げられる。例えば、早期離職者の増加などの背景には、勤労観・職業観の未成熟さがその原因として考えられる。そこへ教育的支援を効果的に行うためには現在の若者の勤労観・職業観の実態を調査し、その問題点を探ることが重要だと考える。

2. 研究の目的

(1) 大学生が職業（仕事）に対して抱く素朴理論の検討

職業観に関するこれまでの研究の多くでとられたように、研究者が理論的に想定した仕事に関する価値観（例えば「労働条件」「キャリア志向」「知的刺激」など）を若者がどの程度有しているかを量的に分析していくという方法だけでなく、若者自身が独自に構成した職業に関する価値観 = 職業に関する素朴理論を明らかにしていくアプローチが必要だと考える。

人はたとえ専門的な知識は十分になくても、様々な社会的事象について素朴な理論を持っていることが知られている（e. g. Furnham, 1988; 堀・丸野, 2003）。しかし、そのような素人の素朴理論の多くは適切でないことが多い。だが人はそのような素朴理論をもとに多くの判断や行動を行っている。若者の社会への移行の難しさの背景をそのような視点から考えるなら、若者が日常の経験から独自に構成した職業（仕事）に関する誤った（あるいは未成熟な）素朴理論の存在があると考えられる。

若者が職業（仕事）に対して抱く例えば、保育職を志望する学生が素朴にいただく職業観について検討した堀（2006）においては、保育職に向いていると感じている学生とそうでない学生とで学生が形成する職業観（素朴理論）が異なることが示された。また、堀（2009）においては、保育職に関する素朴理論検討を通して、保育職としての「一般的なあるべき姿」のイメージと具体的な仕事場面での「実際とるであろう行動」とで矛盾を抱える学生の姿を明らかにしている。このように若者の多くは、自らが志望する職業について十分に成熟した理論を有してはいない。若者の素朴理論に職業に対する矛盾や誤謬が多く含まれ、それが強固で適切に修正されないならば、その結果不適切な職業選択を行ってしまうリスクが高まると想定できる。

堀（2006, 2009）は保育職を希望する学生の素朴理論に限定したものであったため、そこに見られる問題点も多くは保育職に密接にかかわるものが多かった。しかし、同種の問題は他の職業を志望する若者にも共通してみられるのではないかと考える。より多くの若者の職業的自立の困難さの原因とそれ

への対応を考える上で、多様な職業を志望する学生を対象に、若者が職業（仕事）に対して抱いている素朴理論の実態とその問題点を明らかにし、それへの教育的援助の在り方考えることは今後の課題として注目できる。そこで本研究では、大学生の職業観に関する自由記述データを主たる分析対象としつつ、先行研究で見いだされ「仕事に関する価値観」や「キャリア成熟」などとの関連を検討した。

#### （2）高等教育におけるキャリア教育の現状と課題の検討

大学生の職業観の発達をどう促すかという問題を考える上で、現在の高等教育の現状とその課題を検討することは重要だと考えた。近年、グローバル化や我が国の産業構造や就業形態の大きな変化とともに、将来の職業生活の在り方、すなわちキャリア形成の道筋を非常に見通し辛い状況に現在の若者は置かれている。そのような状況において、ニートや早期離職者の増加など学校を卒業しても円滑に社会生活へと移行できない若者の問題が指摘されている。本研究では、特に大学から社会への移行に伴う問題に焦点をあてながら、中央教育審議会より平成23年に出された答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」をベースに関連するこれまでの研究報告等も含めながら、大学におけるキャリア教育の課題と展望を概観した。

#### 3. 研究の方法

##### （1）大学生が職業（仕事）に対して抱く素朴理論の検討

大学生の素朴な職業観と仕事に関する価値観との関連性の検討

大学生42名（男性21名、女性20名、生別未記入1名）の調査協力者を対象に、質問紙調査法により行った。調査は教育心理学の講義の中で実施した。質問紙は志望する職業についての質問と、男女大学生の仕事に関する価値観について検討した森永（1993）が用いた質問項目から構成された。まず、（1）将来就職したいと考えている職業（職種）の候補を、現実に就職する可能性が高いと思うものから順に二つ上げ、記入するよう求めた。続いて、その長所・短所を思いつくだけ記述するよう求めた。次に、（2）職業選択の際の重要度について、森永（1993）において用いられたキャリア志向（3項目）、労働条件（5項目）、社会貢献（2項目）、家族（2項目）、知的刺激（2項目）への回答を5件法で求めた。

大学生の職業観とキャリア成熟との関連性の検討

工学部大学生67名の調査協力者を対象に、質問紙調査法により行った。調査は大学の講義の中で実施した。質問紙は坂柳（1999）により作成された成人キャリア成熟尺度と職業（勤労）観に関する4つの質問から構成された。キャリア成熟尺度は、関心性、自律性、

計画性の3つの下位尺度の各7項目（合計27項目）について自分の考えにあてはまる程度を5件法で回答を求めた。職業観に関する質問は、「働く理由」、「社会人と学生の違い」のそれぞれについて自由記述による回答を求めた。

##### （2）高等教育におけるキャリア教育の現状と課題の検討

特に大学から社会への移行に伴う問題に焦点をあてながら、中央教育審議会より平成23年に出された答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(1)をベースに関連するこれまでの研究報告等も含めながら、大学におけるキャリア教育の課題と展望を概観した。まず、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)において、現代の若者のキャリア形成にどのような課題があると考えられているのか、その全体像を概説した。続いて、わが国の産業構造・就業構造の変化が若者のキャリア形成に及ぼした影響について、雇用形態の変化、職業にかかわる能力開発の変化、職業にかかわる能力の向上・変化といった点から検討した。さらに上記の職業にかかわる能力の向上・変化の問題をもとに、職業に関する教育の課題を特にハイパー・メリトクラシーと教育の職業的意義の観点から検討した。最後に前章までの課題や問題点、研究知見を整理し、「まとめ」として、今後の大学におけるキャリア教育の在り方や大学生のキャリア形成について論じた。

#### 4. 研究成果

##### （1）大学生が職業（仕事）に対して抱く素朴理論の検討

大学生の素朴な職業観と仕事に関する価値観との関連性の検討

本研究の目的は、学生がどのような基準に基づいて個々の具体的な職業を志望するのかを自由記述から探索的に検討することであった。したがって、分析にあたっては、まず、テキスト型データ解析ソフト WordMiner を利用して、志望する職業、その長所、短所からキーワードを抽出した。それらキーワードに、性別、キャリア志向の高低を質的変数として加えた上で対応分析を実行した。その結果を Fig.2 および 3 に示した。結果から、例えば教職を志望する学生は、自分の成長、楽しさ、ふれあいを長所だと考える一方、適正不安、多忙、責任の重さなどを短所だと考えるというように希望する職種ごとに固有な観点から評価が行われている実態が明らかになった。また、キャリア志向の高低は職種よりも評価観点の違いと関連することが示唆された。

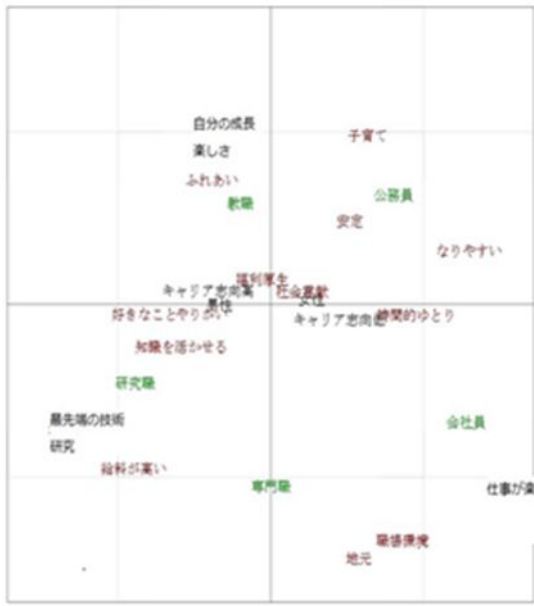


Fig. 2 志望する職業の長所と仕事に関する価値観，性別との関連についての分析

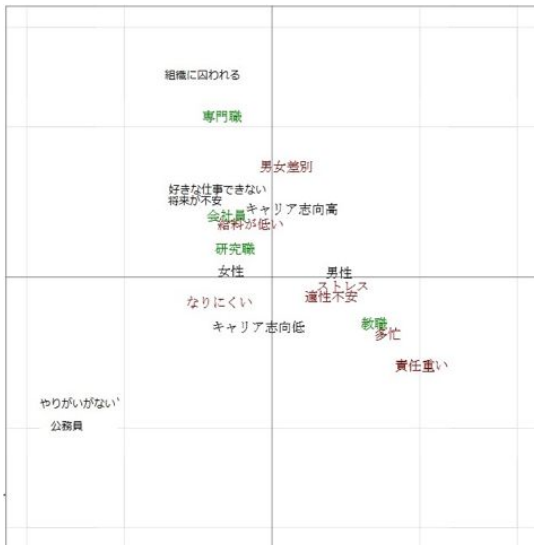


Fig. 3 志望する職業の短所と仕事に関する価値観，性別との関連についての分析

### 大学生の職業観とキャリア成熟との関連性の検討

本研究の目的は、大学生の持つ職業観に関して、まず「仕事をする理由」と「社会人と大学生の違い」についての大学生の素朴な認識を調べ、さらにそれらとキャリア成熟との関連性を検討することにあつた。したがって、分析にあたっては、まずテキスト型データ解析ソフト WordMiner を利用して、「仕事をする理由」、「社会人と大学生の違い」への自由記述からキーワードを抽出した。それらキーワードにキャリア成熟の「関心性」「自律性」「計画性」のそれぞれの得点について中央値により高低群にグループ化し、質的変数として加えた上で、対応分析を行った。その結果を Fig.

4 及び Fig. 5 に示した。結果から、例えば「働く理由」について自律性が高い人は「生きがい」「社会貢献」「社会的地位」を挙げるのに対して、自律性が低い人は「人間関係」を挙げていた。また、「社会人と大学生の違い」について、自律性が高い人は「社会貢献」「目的意識」を挙げていたが、自律性が低い人は「自由時間」「人間関係」「親との関係」などを挙げていた。このことからキャリア成熟における自律性の高低は、大学生の職業観の発達と関連する可能性が示唆された。

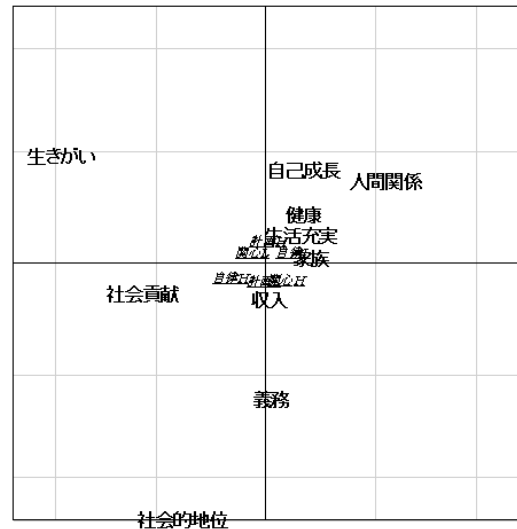


Fig. 4 働く理由とキャリア成熟との関連についての分析

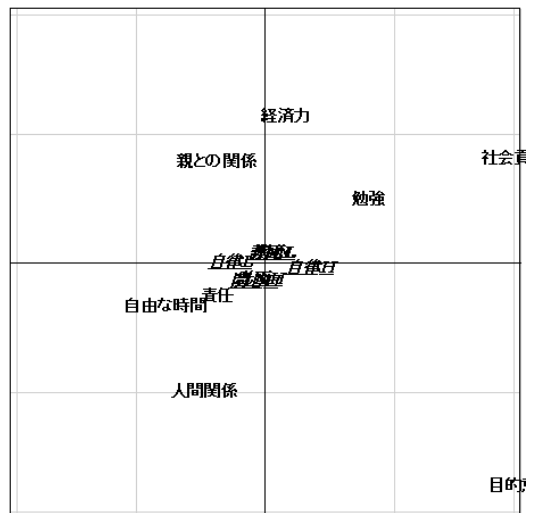


Fig. 5 社会人と大学生の違いとキャリア成熟との関連についての分析

### (2) 高等教育におけるキャリア教育の現状と課題の検討

本研究では、中央教育審議会より平成 23 年に示された答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」をベースに関連するこれまでの研究報告等も含

めながら、大学におけるキャリア教育の課題と展望を概観した。その結果、今後の高等教育におけるキャリア教育の課題として以下のような問題が見いだされた。

まず、大学生の「学校から社会・職業への移行」には、次のような問題があることが示された。第一に非正規雇用の増加などの産業構造の変化にともなう「雇用構造の変化」の問題である。第二に社会で求められる（就職の際に求められる）「能力観」（あるいはそれをめぐる言説）の変化である。第三にそれらを背景として進められてきた現在のキャリア教育への批判である。教育という視点から再度整理するならば、教育がある種普遍的にもつ既存の文化や規範への同調圧力の問題を考えなければならないだろう。つまり、教育は若者を既存のコミュニティの成員に育てるために行われる性格をもつが故に、キャリア教育という文脈の中でも既存の雇用構造や労働環境への適応を個々人の意思や欲求と切り離した形で強いる傾向も持つてしまうのかもしれない。しかし、「対抗的キャリア教育」や「就活のオルタナティブ」という考えは、そのような教育の性質に反する形でキャリア教育がなされる必要があることを示唆している。そのようなことが「学校教育」という枠組みの中で可能なのか、あるいは「学校」という枠にとらわれずに、コミュニティのなかでの「教育」という枠に拡張した中でキャリア教育をとらえていくべきなのか今後検討していくことが重要だと考えられた。

また、「能力観」に関しては、状況普遍的な抽象化された形で能力（たとえばコミュニケーション能力のような）を教育するという意味をどのように捉えるかという点が重要な点だと考えられた。言い換えるなら、「ポスト近代型能力」それ自体が不必要だとか無意味だとかいうことではなく、「就職のために」そのような能力の獲得を学生に強いることの是非、あるいはそもそも「学校教育」という枠の中でそれが可能なのか、また、仮に可能だとしてもそれをどのように測定・評価するのかという問題である。この点に関しては、現在さまざまな取り組みがなされているところであり、その成果を詳細に検討していきながら今後のキャリア教育の在り方を考えていく必要がある。本田のいう「柔軟な専門性」の形成を中心とした教育課程の編成はそれへの答えの一つになりうるかもしれないが、ともすると本田の本来の主張とは異なり、狭く限定された専門教育への志向となってしまう恐れもある。例えばそれが行き着くところまで行き着いた姿が「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議（第1回）」における富山の主張に表れている。そこでは、一部の学生のみが「ポスト近代型能力」を身につけるための教育を受けグローバルな社会での活躍を期待される。一方、残りの大半の学生は「ポ

スト近代型能力」の教育を受けずに、特定のジョブに特化した「専門的」教育のみを受けローカルな社会に生きるという。そのような教育の姿が果たして望ましいもので、今後の我が国の教育の目指していくべき方向といえるのかについて慎重に考える必要がある。また、ここでは、職業選択を行う個人の内面の意思決定プロセスの問題については検討してこなかった。しかし、職業選択における意思決定に関する心理学的研究は豊富にあり、その中には現代の変化の激しい見通しを立てにくい不確実な労働環境への対処という視点をもった理論もある。本研究で見てきた議論を踏まえ、そのような理論から今後のキャリア教育を考える新たな視点を得ていく可能性についても今後検討が必要である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

堀憲一郎、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(中教審答申)からみるキャリア教育の課題と展望, 久留米工業大学研究報告, 査読無, No. 37, 2014, 61-71。 ([https://ndlopac.ndl.go.jp/F/?func=find-c&=amp=&=amp=&=amp=&=amp=&ccl\\_term=001%20%3D%20026290123&adjacent=N&x=0&y=0&con\\_lng=jpn&pds\\_handle=&pds\\_handle=](https://ndlopac.ndl.go.jp/F/?func=find-c&=amp=&=amp=&=amp=&=amp=&ccl_term=001%20%3D%20026290123&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle=&pds_handle=))

〔学会発表〕(計 2 件)

堀憲一郎・生田淳一、大学生の素朴な職業観

- 自由記述データの探索的検討 -, 日本教育心理学会総会, 2012年11月23日, 琉球大学 (沖縄県中頭郡西原町)

堀憲一郎、工学部大学生の職業観とキャリア成熟との関連性 - 職業観に関する自由記述データの探索的検討を通して -, 日本教育心理学会総会, 2014年11月8日, 神戸国際会議場 (兵庫県神戸市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

堀 憲一郎 (Hori Kenichiro)

久留米工業大学・共通教育科・教授

研究者番号: 40390265